

# 風土記の丘の花だより<sup>313</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2026年3月21日)

一雨毎に春になっていくのを実感します。大池のカモも大半は北に帰っていき、水面は寂しくなりました。色とりどりの春の花たちがたくさん咲き始めました。今回も4種を紹介することにしましょう。



名前に春がつく花、シュンラン(春蘭)が咲き始めました。まさに春の到来です。花茎を直立させて、まるで背筋を伸ばしているような花です。「凜として」という表現があたるかもしれませんね。心ない人によって盗掘されがちな野生ランにあって、このランだけはたくさん残っています。嬉しいことです。これは万葉植物園で撮影しましたが、園路沿いでもあちらこちらで見かけます。春の花を見るとワクワクしてきますね。



当館の職員の方が植えてくださったショカツサイがきれいな紫色の花を咲かせています。何年か前までは小早川家にもありましたが、いつの間にか絶えていました。来園者の方々が喜ぶようにといろいろな植物を植えたり、世話してくださったりと作業をしてくださる職員の方々には感謝しかありません。この花は江戸時代に中国から渡来したもので、観賞用としてひろがりました。アブラナ科なので、野菜としてもおいしくいただけるそうです。私は鑑賞するだけにとどめていますが、花もおいしいそうですよ。



最近よく見かけるようになってきた黄色い花、ヒメリュウキンカです。ほんとうにどこにでも生えていますね。葉がつやつやしているし、花は大きく鮮やかなので、おそらく園芸植物として植えられ、それが野外に逃げ出してこんなに広がってしまったのでしょう。第一印象はツワブキに似ていますが、ツワブキはキク科、これはキンポウゲ科で全然違う仲間の花です。



左下の黄色い花はシナレンギョウです。ふつうはシナを付けずにレンギョウと呼ばれがちですが、正しくはこの名前です。公園などによく植えられていますが、枝垂れないレンギョウがこのシナレンギョウです。枝の中は写真のように細かい節になっていて、レンギョウの仲間の特徴です。花には雌雄があります。



松下